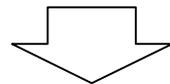


対策工法の検討

資料4

検討内容	<p>廃棄物の掘削や整形を行う場合には、周辺環境への影響や作業に危険を伴うおそれがあることから、事前に硫化水素ガス等の発生を抑制する必要がある。</p> <p>現在、廃棄物安定化促進技術の一つであるドライフォグ技術の現場適用性試験を実施し、硫化水素ガスの発生が抑制されるなど一定の効果が見られてきたところであるが、それ以外の技術を用いて廃棄物安定化促進や悪臭防止を行った事例があることから、ドライフォグ技術とその他の技術について比較検討を行う。</p>
------	--



対策工法の比較

工法種類	ケミカルオキシデーション法		強制的好気法	
	ドライフォグ	薬液注入	スメルウェル	バイオプースター
特徴	<p>【ドライフォグの特徴】 薄い過酸化水素水(またはオゾン)と空気を一緒に噴霧することによりできる微小な粒(ドライフォグ)を井戸から吹き込む。 対応深度20m(当事案の実績)</p>	<p>【薬液注入の特徴】 水に酸化剤を添加し、井戸へ注入する。</p>	<p>常圧に近い圧力で空気を連続注入し、サクシヨン管からガスを吸引しバイオフィルターを通し放出する。 対応深度3~5m</p>	<p>空気または酸素を3~5気圧で間欠注入し、サクシヨン管からガスを吸引し、バイオフィルターで処理して放出する。 対応深度10m程度</p>
メリット	<p>水分含有時での効果あり 空気も同時に注入するため、廃棄物層内が好気化される。</p>	<p>水分含有時での効果あり</p>	<p>悪臭安定化処理 海外実績多数あり</p>	<p>有機物安定化処理 高圧利用するので水分含有に有利</p>
デメリット	<p>実施事例がない</p>	<p>表層から注入した場合は水みち周辺に効果が限定される。</p>	<p>水分含有時の効果が弱い 有機物処理不利</p>	<p>高圧または純酸素利用するので経済性にやや劣る</p>